http://f-env.sakura.ne.jp

☆題字の樹木イラストは、環境の三大要素「水・緑・大気」をイメージ

# 府中かんきょう市民の会

NPO法人　府中かんきょう市民の会会報
2020年 春号 4月8日(水)発行　通巻76号
発行人　小西 信生（府中市四谷6-19-20）
TEL 042-405-8524
編集人　葛西 利武
（府中市市民活動センタープラッツ登録団体）

活動10年目にして

## 大規模な西府崖線(ハケ)の樹木保全

2019年度に市は西府崖線の樹木保全のため広範囲に伐採、間引き、剪定を行なった。これまで市は、近隣住民から樹木の繁茂、落ち葉の処理等に悩む声を受けて、緑道側に伸びた枝の上部等をその都度伐採するなどしてきたが、今回当会との協働が進む中、初めてハケ全体の保全に向けた施策に着手した。

㊧2015年3月倒木と繁茂　㊨同場所の伐採後の様子

### 崖線の樹木保全のあり方を提案

7月18日㈭午前に、都市整備部公園緑地課長と補佐、現場職員の計3名と樹木伐採・剪定の委託造園業者の責任者、そして、当会からは樹木医の新井孝次朗氏（第5回わき水まつり講演会講師）、崖線保全や景観・環境配慮型都市計画を提案されてきた神谷博氏（第4回わき水まつり講演会講師）を急きょお呼びし、総勢13名（当会員7名含む）で崖線下あずまやから上へ西府文化センター手前まで点検した。

新井氏からは、伐採を必要とする樹木の選定、景観を重視しながら繁茂する樹木の剪定方法等について指摘していただき市と業者に伝えた。

崖線にふさわしくないとされたムク、カツラ、トウネズミモチ、アカメガシ、シンジュ、エノキ、タブ、ニセアカシア、シュロは伐採する方向で進め、武蔵野元来のケヤキ、コナラは大切に、オオヤマザクラ、モミジ、ウコギ、シロダモ、ネズミモチ、クロガネモチ、クロウメモドキは残しながら育てていくことの助言があった。初夏には心地よい香りと花を咲かせる「のぼり藤」は残す提案もあった。（会報前号でも一部触れる）

神谷氏からは、西府町湧水池にて、台風19号以降、広範囲にかなりな湧水量となっている現状から、湧水地保全型の維持管理について助言を求めた。上部にあるケヤキの大木に絡まったツタを取り除きクマザサ等の低木もそのままにし、景観を重視した方向性が示唆された。

7月下旬～8月にかけて、業者は落葉樹の緑葉があるうちにと、保存する樹木は紫、伐採・間引きはピンク、剪定等は黄色等と識別テープを樹木に巻き、まずは分類から始まった。以降2月上旬まで伐採等はどんどん進んだ。近隣の方から当会に寄せられた声は、「手入れがされてさっぱりした」「春以降の芽吹きが楽しみだ」とのこと。

新井氏（ザックを背負う）、保全管理法を指摘（7月18日）

湧水前の神谷氏（中央黒色シャツ）

### 2020年度の活動に向けて／1月31日公園緑地課と意見交換

2019年度に樹木の保全整備がある程度進んだ中、2020年度第11回わき水まつり講演会開催（7月5日㈰午後、西府文化センター予定）に向けて、1月31日に都市整備部宛に要望書を提出し公園緑地課と意見交換を行なった。

- 2019年度樹木管理の実際と今後に向けての整備のあり方等について
- 市川用水の通年通水について、継続して国立市と連携を密にしてほしい
- 大量の落ち葉を利活用するため、『堆肥置き場』の設置場所の確保について
- 日新町1丁目カッパ池に隣接する南側のNECの土地の有効利用について進捗状況等々

2020年度の講演会では、今後の崖線の自然環境の維持と保全のあり方をまとめる方向で、特に地域の方々との意見交換の場を持ちたいと考えている。詳しい講演会の内容は、6月の広報ふちゅうに掲載予定、次号「ハケ・用水・わき水通信（No.35）」でお知らせする。（浅田多津子）

㊧識別テープが巻かれた樹木
㊨伐採後の西府町湧水池

伐採後の市川緑道と崖線（ハケ）

米づくり体験

# 「田んぼの学校」2020 生徒募集

| | 開校日 | 行事<br>農作業体験 | 観察<br>調べること |
|---|---|---|---|
| 1回 | 5月24日(日) | 開校式・田植え<br>・バケツ稲 | 泥の感触、<br>植える苗の深さ |
| 2回 | 7月5日(日) | 稲の生長観察<br>・生き物探し | 稲の生長観察<br>・田んぼの生き物 |
| 3回 | 9月20日(日) | 稲刈り・ハサかけ | モミのつき方観察 |
| 4回 | 10月4日(日) | 脱こく・モミすり<br>・修了式 | 玄米が<br>できるまでの作業 |

田植え。初めての泥の感触は？

田んぼの学校は15回目を迎えました。この間、身の回りの数少ない田んぼ、畑が次々宅地に変わり寂しくなる中、東京農工大学の田んぼは自然を感じさせる貴重な存在になりつつあります。

昨年は小中学生41名（低学年19名、高学年21名、中学生1名）、大人1名合計42名の参加を得て開校しましたが、参加者数は1日目「田植え」36名、2日目「稲刈り」は26名、3日目「脱こく」は23名と例年になく出席率が低調でした。

原因は？　同様のプログラム例えばこめっこクラブ（郷土の森博物館主催）、親子ふれあい農園「稲作体験」（経済観光課農政係主催）、府中市内22小学校中14小学校では近隣の農地または敷地内の田んぼを使っての田植え体験カリキュラム（5年生）が組まれていること等も考えられます。開催回数は熱中症対策もあり前々回からは7月の開催を取りやめ、「田植え」「稲刈り」「脱こく・モミすり・修了式」全3回にしましたが5月末の「田植え」の次は9月末の「稲刈り」まで4ヶ月間空くことになり、稲の生長を観察できない、田んぼの生き物とのふれあいも味わえない、「稲刈り」に欠席した生徒は続く「脱穀・モミすり」も欠席する傾向がありました。

たわわに実った稲穂の刈り取り

### 「生き物探し・稲の生長観察」を復活開催

その対策として今年は「田植え」と「稲刈り」の間、7月初旬に「生き物探し・稲の生長観察」を復活開催し、開催回数は全4回①開校式・田植え②生き物探し・稲の生長観察③稲刈り・ハサかけ④脱穀・モミスリ・修了式にします。定員40名。4月11日(土)の府中市広報で募集、24日(金)締切りです。　（柿本正夫）

**募集要項**

△募集数: 40名(超える時は抽せん)
△参加費:1,000円
△対　象:小学生～大人(1～3年生保護者同伴)
△場　所: 東京農工大学　本町農場(本町3―7)
　　分倍河原駅徒歩5分
△日　数: 全4日　毎回9:00～12:00

**※4月1日付で新型コロナウイルス感染防止のため中止となる。**

多摩川探検

# 四谷小での3学期の環境学習

2020年1月20日、四谷小で「多摩川探検」の名前で、1、2学期に続いて3学期にも環境学習を実施しました。天候は晴れ、微風、気温5～10℃でした。小学3年生の3クラス115人がクラス別に分かれ、多摩川堤防（かぜのみち）で野鳥観察、西府緑地では樹木の観察を行ないました。

冬期は植物や昆虫はほとんど観察できないため、当初は渡り鳥が多いと予想された野鳥観察に集中する予定でした。しかし、前年（2019年）10月12日の台風19号による豪雨のため、多摩川の河川敷を含む川全体が、上流からの大量の土砂の流入、既存の樹木や野草などの流出に見舞われ、当然川の中の草や魚も多くは流されるなど、大きく擾乱（ジョウラン）が進んだ結果、野鳥にとって食べものになる川の魚や草なども極めて少なく、暖冬ということも重なってか、渡り鳥はほとんど見られませんでした。

昨年の台風19号の翌日（13日）6時38分、郷土の森付近から撮影。激流の多摩川。天候快晴。中央にかすかに見えるのが秀麗富士。多摩川に棲む生き物たちの環境激変　＝撮影　葛西利武

四谷小での環境学習（多摩川探検）。双眼鏡で野鳥の観察風景。「多摩川かぜのみち」にて

野鳥だけではなく、それ以外の自然を子どもに観察させたい、小学校隣りの西府緑地での樹木観察を加えて実施すること、また、少しでも野鳥が観察できるよう双眼鏡をできるだけ集めることになり、なんとか57台を準備できました。

授業は8:45開始し、全体での概要説明後、8:55頃～クラス別に校外授業、10:00頃校庭に戻り、簡単な質疑応答を行なった後、10:20頃予定通り終了しました。

### 3月は新型コロナウイルス感染防止のため全国一斉休校

3月7日には、1年の学習のまとめをポスター発表会として行うことを予定していました。しかし、残念ながら「新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国一斉に3月は休校してほしい」との政府の要請を受けて、府中市も春休みまで休校となり、その影響で発表会も中止になりました。

ポスター作成までは済んでいたとのことですから、もしこのままでも、また4月以降に実施しても、子どもにとって記憶に残る授業になるのではないかと思います。（小西信生）

3年の審議とパブコメ終了

# 「府中市緑の基本計画2020」検討協議会

市は、2017年から3年間かけて計10回の協議会とパブコメによる市民からの意見・調整を行ない、「府中市緑の基本計画2020」を策定した。2017年7月に「市民アンケート調査」、2018年10月に市内3ヵ所にて「これからの都市の『緑』について考える」ポスターセッションを実施した。

千賀裕太郎検討協議会会長(中央)と佐藤留美副会長(左)から高野律雄市長に答申

## 高野市長に「府中市緑の基本計画2020」答申

「府中市緑の基本計画2009」では、当会から故大崎清見氏(2代目理事長)が委員となり、継続して委員を出すこととした。当会20年間の活動と府中崖線の一部である「西府崖線」保全活動の経験から得たことを踏まえ「府中市緑の基本計画2020検討協議会」に参画した。

先の計画で、当会が重要視した市内東西に緑樹林地が連なる歴史的自然遺産である府中崖線について市は「恒久性の確保については、都市緑地法や条例等に基づく地域制緑地の制度を活用するほか、緑化基金などを活用して公有地化を進める」とした。しかし、国分寺崖線同様に府中崖線の樹林地は減少傾向にあり、公有地化は進んでいない。多摩丘陵地帯を眺望できる場所も少なくなってきたのが現状だ。市民協働での環境保全の推進を柱として、以下の内容を意見した。

①崖線の緑樹林を守るために、公有地化を進展②ヒートアイランド現象や生物多様性の観点から、通年通水化を進める環境用水へ③湧水保全等のため、雨水の地下への涵養を進展④環境学習の機会の推進と拡充⑤自然観察会等の参加・体験型の講座を通して、意識啓発や環境保全を進展⑥府中基地跡地利用は生態系を重視した緑地を維持⑦農とふれあう機会、地域コミュニティづくりを進める市民協働型農業公園⑧絶滅危惧種植物等の保護、保全⑨水と緑のネットワークは拠点整備だけでなく、生き物のよりよい移動経路として有機的につなげる等々。

今計画は「緑」を一緒に考え、進め、継承していこうとまちづくりの視点で「緑育のまち」が5つの基本目標にあげられ、「緑のパートナー」とともに5つの重点プロジェクトに取組むことが盛込まれた(㊧)。ちなみに、公募市民として当会の葛西利武も委員を務めた。

(浅田多津子／委員)

㊧㊤重点施策6つのプロジェクト
㊧「府中市緑の基本計画2020」表紙カット

SDGsって、どう役立つの？

# なるほど→実践！！ わたしにできるSDGs

子どものころから環境問題が気になっていながら、ほんの数年前までは「上手に取り組めてこなかった」と感じていました。では、なぜ最近は「まぁまぁできている」気がするのか？　この記事を書くにあたり、それはSDGs(エスディージーズ)を知ったおかげもありそうだ、と思いました。

## SDGsは「Sustainable Development Goals」の略

17の目標アイコン。そのなかにそれぞれ具体的なターゲット設定

日本語で言うと「持続可能な開発目標」。英語の頭文字で、国連で2015年に全会一致で採択された「2030年までに達成されるべき17の目標」を指します(㊧図)。気候変動対策や資源保護などのいわゆる環境問題もあれば、貧困や飢餓などの社会的な課題も含まれています。どれも『誰一人取り残さない』で持続可能な世界を実現するために欠かせないとされた目標なのです。

それぞれの目標には、より具体的な10個前後の「ターゲット」が設定されています。たとえば、目標4「質の高い教育をみんなに」の5つ目のターゲットは「4.5　2030年までに教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子供など、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする」とあります。この日本でももう達成できている「目標」がいくつもあるようでいて、個々の「ターゲット」を見ると、まだまだ課題が沢山あるのです。

## 世界共通の航海図を得て、行動に自信

今までは地球規模の課題の多さを感じつつ、全体像がつかめなくて途方に暮れがちでした。これからは個人も企業も国も、今しようとしていることがSDGsのどれに貢献できるか？ との視点で活動すればいいのです。この世界共通の航海図を得て、行動に自信が持てるようになりました。

次稿からは、「地産地消」など個々人が日常生活でできることについて紹介していきます。　(荒川紀子)

## ワークショップ出展　花王国際こども環境絵画コンテスト

当会のブース

2020年2月9日、市民活動センター主催のポスター展で行われたワークショップに出展しました。

花王とは石鹸や洗剤、化粧品などを生産販売している大企業です。連結売上1兆5千億円を超え、世界の約100カ国で製品を販売しているそうです。その花王がESG(※)活動の一環として、世界中でこどもの環境絵画を募集し、優秀な作品を展示する活動が表記の「花王国際こども環境絵画コンテスト」です。2月8日から24日まで開催され、当会は市民活動センターの要請で、ワークショップに出展したものです。

### ワークショップ出展した市内の団体は当会だけ

ワークショップとして府中市内で出展した団体は当会だけでしたが、シュロでのバッタづくり、イロガミでつくるアオムシ、水に浮かぶアメンボ、紙でつくるメスのモンシロチョウ、ジュズダマでつくるブレスレットなど、自然をテーマにしたメニューを用意し、73人の子どもや大人が参加しました。

シュロバッタはこうしたイベントでのメニューとして講師役会員も3人が参加しましたが、終了時間近くなって参加したお子さんは、付き添いのおばあさんと一緒で、時間中会員が作ったシュロバッタ10数匹をもらって、「おかあさんにみせる。学校のクラスメイトにもみせる」とはしゃいでいました。

ワークショップとしては、当会以外にも花王㈱による洗剤の実験や、「廃材アートグランプリ」「mymizuによるペットボトル削減の呼びかけ」などがあり、ポスター展示も「府中の小中学生による環境啓発ポスターコンクール」入選作品の展示(14作品)も行ないました。

主催:市民活動センターのポスター

環境絵画コンテストは2019年度で第10回ですが、チラシに使われた作品は第4回の作品とのことで、また9日の10数枚の展示作品は6～8回での入賞作品で、開催期間中順次入れ替えるとのことでした。

(小西信生)

※ESG:環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字で、企業の長期的成長のために必要という考え方

## バス見学会実踏　都立葛西臨海公園＆都立葛西海浜公園

1月24日㈮にチームメンバーの乗用車と運転で計4名が実踏を行なった。午前「日本野鳥の会・東京」東 良一代表に当日のコースを想定しながら現地案内をお願いした。

スコープを担ぎながらの散策中、オオタカがキジバトの羽をむしって肉をついばんでいるところに出くわした。飛び立った後の残骸も見ることができ、またとないシャッターチャンスを得た。午後からは見どころに分かれて鳥類園、水族館、日本一の大観覧車にも乗ってみた。

オオタカ＝当会の牧原文男撮影

ラムサール条約湿地
「葛西海浜公園」石碑

海浜公園内「三枚洲」は、野鳥の会の保全活動により2018年10月に都内初のラムサール条約に登録された場所であり、東京オリ・パラ「カヌー・スラローム」の当初の会場予定地を問題視し変更の要望書を都やIOCに提出し会場が変更された経緯もある。

**3月25日㈬付けで新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた4月17日㈮は延期としました。**

(浅田多津子)

## 西府崖線　2020年度前期(8月まで)活動予定

1. **春の清掃活動＆昆虫等生態系調査 5/16㈯(荒天17日)**
   9:30～11:00その後生態系調査
   **「広報ふちゅう」掲載**　担当／葛西利武
2. **春の市民花壇＆西府町緑地花壇苗支給　6月中旬**
   種・肥料購入　担当／鈴木潔　田中香代子
3. **第五小、四谷小3年生環境学習　時期未定**
   学校と打ち合わせ 担当／小西信生

**「わき水まつり」への参加、大歓迎！！**

4. **わき水まつりパート1(講演会)　7/5㈰** 13:30～17:00
   **「広報ふちゅう」掲載** 担当／浅田多津子　葛西利武
   ・内容:(仮称)崖線の保全活動とこれからの保全のあり方
   ～次世代に残したい崖線の自然～(資料代 200円)
   ・会場:西府文化センター会議室(事前申込み制)
   ・講演会後に懇親会　17:00～18:00(参加費 500円)
5. **わき水まつりパート2(野外の部)＆魚・昆虫生態系調査**
   **7/19㈰**　担当／浅田多津子
   ・テーマ:(仮称)外来種と生物多様性について学ぶ
   ・講師:大平さん、近藤さん、高家さん、農工大学生
   ・「用水の生き物探検」 9:30～11:00
   ・「昆虫と遊ぼう」　11:00～12:00
   ※午後の開催については天候しだいで当日判断
6. **「キツネノカミソリ」を観る会→開花お知らせポスター**
   **※7月後半か8月前半**　担当／田中香代子

✐5月1日㈮発行の「ハケ・用水・わき水通信(№35)」にも掲載。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定は変更になることがあります。

ハケの樹木伐採中の観察会

# 西府崖線 野鳥観察会

日 時／1月19日(日) 9:30～10:40　天 候／快晴
参加者／竹内章　田中香代子

アオサギ2景（2020年1月19日撮影）　㊧電柱上　㊨市川用水

昨年末から西府崖線は数えきれないほど増えたシュロの伐採と大きくなった樹木の剪定が行われ、作業が進むにつれて鳥の声が少なくなっているなかの観察会でした。

天候不順が3日間続いた後の19日(日)、作業もなく静かな快晴に恵まれた鳥見のスタートです。あずま屋の出発点で常に見慣れているヒヨドリ、ムクドリの確認と共に冬鳥のシメの飛来に思わず「ラッキー」。

東京都名湧水57選に選ばれた地まではほとんど作業も終わり急斜面が目につくばかりで鳥の姿は全くなく、キジバトがヒョコヒョコと道路を歩き、上空ではハシブトガラスとハスボソガラスの争いらしい声が響いていました。

大山道手前の崖線で足をとめていると「チャツ、チャツ」とウグイスの地鳴きがあり、姿を探していると、突然頭上をバサッとアオサギが通り過ぎ目の前の電柱に止まりました。写真！写真！とあわてて撮っているとまたまた頭上を飛び去るコサギ、2羽とも用水でエサ探しをしていたのでしょう。

大山道を上り崖線の上の駐車場で足をとめると微かにエナガの声が。シジュウカラもちらり、コゲラがヒョイヒョイと木を登っています。湧水沿いの階段近くでは「クルッ、クルッ」とこれまた姿は見えずにシロハラの声。前日（18日）の雪交じり雨で順延のため、今回の観察会は参加人数が2人のみで寂しいものでしたが、鳥との出会いは多く面白いものでした。下記は確認できました野鳥16種です。

## 富士山ビューポイント2景

ちなみに、ハケ上のコースは見晴らしが大変よいところです。ここに、富士山ビューポイント2景をご紹介します。

（田中香代子）

①エノキ付近（ネームプレート45 ）　②西府文化センター前
手前建物はNEC㈱府中事業場

キジバト、アオサギ、コサギ、コゲラ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ウグイス、ムクドリ、シロハラ、スズメ、シメ／16種

前号の続き

# 都立農総研が太陽光型植物工場を開発

植物工場内の大玉トマトの生育状況

東京都農林総合研究センターは、ICTを導入した生産システム構築に取り組み、太陽光利用型の「東京型統合環境制御生産システム」(以下本システム)として一昨年秋発表した。

都市農業は、年々農地面積が減っている上、農家の平均年齢も63.9歳（2015年）と高齢化が進む。都としては農家の収益性を高めて農業の担い手減少を食い止め、大消費地という立地を生かして、限られた小規模の農地でも高収益の農業経営を実現する狙いである(*1)。初期投資額は、他の同等のシステムに比較してかなり安く、3200～3300万円で都及び市から大略援助あり。

## 本システムのおもな特徴

①養液栽培…完全循環式で養液の廃液はなし。ヤシ殻培地は5年連用可能で連作OK。水ストレスを与えて糖分の増加も可能。

②統合環境制御生産システム…温度・湿度・CO2・飽差(*2)及び施肥・灌水をセンサーで感知し、コンピューターによって生育に最適な環境を保つ。窓や遮光シートの開閉は端末機から操作できる。

③冷暖房…ヒートポンプと温風暖房機のハイブリッド運転による冷暖房。除湿も可能。

④病害虫対策…0.4mm目合いの防虫ネットと水道圧と散水ノズルを組み合わせ。

⑤「見える化」…作業内容は現場で端末機に記録され、作業・環境・生育等のデータの「見える化」によって情報が共有化され、作業効率を飛躍的にアップさせるとし、ミスによるロスも減り、収益アップにつながる。また、「暗黙知」から「形式知」化(*3)させることで、「技術継承」が容易となる。

⑥成果…「大玉トマト」50t超/年/10aと通常のハウス栽培（20-10t/10a）の3倍の収量、糖度Brix5.7%。
「胡瓜」収量が高く40.7t/年/10haを達成、大きさや形状が一定になりやすく、見た目も保てる。

⑦あきる野市の農家で実証実験中（5a）。（当会で見学済）

⑧技術指導…東京都指導農業士が設備の扱い方や栽培について指導。以上が、本システムの概要である。

府中市農家の意識調査によると、農業を継続する上で阻害要因としてあげた「相続税」63%、「市街地の営農環境が悪化」38%、「農業収入の低迷」37%、「農業従事者の後継者不足」24%、「販売先がない」2%(*4)のそれぞれの項目において、本システムを導入した結果、ⅰ 上記②～⑥項 生産性の向上、ⅱ①項農業の3Kからの脱却、ⅲ①～⑥項による作業量減少、ⅳ⑧項「暗黙知」から「形式知」化することによって技術継承が容易となる。

以上の理由により「府中農業の新たな基盤」が作られる可能性が大いにあるものと考えている。　（竹田勇　渡部敏郎）

註)(*1)日経新聞'18/9/10 (*2)日中は葉裏の気孔を閉じると光合成の材料であるCO2を取り込まなくなり生育が止まってしまう。そのために気孔を閉じない状態の保持が、適正な条件である。一般的なトマトでは飽和蒸気に対して残り3～7g/㎡の水分を吸収できる条件が最適な条件である (*3) 形式知…文章、図表、数字などによって説明・表現・共有できる知識を指す。誰にも認識できて、客観的にとらえることが出来る (*4) 第三次府中市農業振興計画(2015年制定)表19 農業継続の阻害要因（複数回答）

西府崖線
自然樹林公園風へ

# 樹木ネームプレート総取替え、『ハケって、なに？』改訂版

## 樹木ネームプレート総取替え

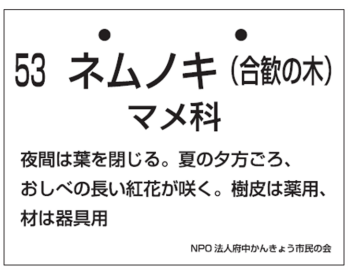
本宿町緑地の急傾斜地での54番イヌザクラの取付け作業

2012年5月7日にネームプレートを取付けてから約8年が過ぎた。当時は74の樹木にネームプレートを取付け、樹種は35だった。ネームプレートは、ホームセンターで購入したプラスチック板を会員宅の庭先で切りとったものであった。

当時の取付け作業は現場で樹木を同定し、その手作りネームプレートに油性マジックで書き込み、樹木にシュロ縄で巻付けた。しかしながら、近年、経年劣化が著しくネームプレートの総取替えを行うことになった。

総取替え作業は、2018年12月1日に1回目の事前調査の後、翌2019年11月5日の2回目の事前調査をへて、同年2019年12月7日(土)に実施した。したがって、2年がかりの作業となった。作業当日は悪天だったが、事前準備がよかったのか順調だった。予定どおり9:00～12:00の3時間で終了した。参加者は会員8人と樹木医・新井孝次朗氏を含めた9人。

今回は取付け樹木60、樹種は41。できるだけ同種類を減らし、6樹種増やした。そのため、ハケに生育するほとんどの樹種に取付けたのではないだろうか。また、ネームプレート製作は専門業者に発注し、一口メモと漢字でも表記した。ちなみに、樹木分類体系は1998年公表のAPG体系によった。




53ネムノキ。一口メモ、科と漢字も表記。右下に当会の名称も記入（御嶽塚古墳上）

## カラー図版『ハケって、なに？』改訂版発行

ネームプレート総取替え終了後、2016年9月1日発行のA3サイズ/三折り（140cm×297cm）の『ハケって、なに？』の改訂版発行に着手した。発行日は2020年3月1日である。

西府チームメンバーが保存している写真、資料などを提供し合い、制作は元会員のデザイナー内田久子氏。

表面(右上㊧)修正箇所は、「ネームプレート付き樹木の一口メモ（㊨表）」、「西府崖線の年間の保全活動」、「奥付」等である。

中面(右上㊨)では、「樹木名一覧」差替え、左上「春」に枝垂れ桜とエゴの花をいれ、右上「夏」にはカラスウリ、右下の「冬」は旧ネームプレートのついたヒメシャラから、ないものに差替えた。さらに、あずまやと御嶽塚古墳の写真を差替え、西府町緑地を新たに加えた。

ちなみに、発行部数は970部であるが、そのうち490部はセブンイレブンの助成金を活用したものである。

（葛西利武）

（表面）

（中面）

ネームプレート付き樹木の一口メモ

| No | 樹木名 | 科名 | ネームプレート設置位置 | 一口メモ | 常 | 落 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | アカシデ（赤四手） | カバノキ科 | 36 40 | 若葉は紅色で目立ち、秋には紅葉する。高さ約15m。庭木として雑木林の野趣を演出したい場合などに利用される。 | | ○ |
| 2 | アカマツ（赤松） | マツ科 | 55 | 樹皮が赤褐色。アカマツ林では秋にマツタケがとれる。 | ● | |
| 3 | アカメガシワ（赤芽柳） | トウダイグサ科 | 57 | 道端、川沿い、空き地等にいち早く生える代表的パイオニアの樹木。 | | ○ |
| 4 | イヌガヤ（犬榧） | イヌガヤ科 | 17 | カヤに似ているがそれほど有用でないから、その名がある。穂先に触ってもカヤほど痛くはない。 | ● | |
| 5 | イヌザクラ（犬桜） | バラ科 | 54 | 葉はサクラに似る。春、白い花を多数つけるが、花はサクラのイメージとはかけ離れている。 | | ○ |
| 6 | イロハモミジ（伊呂波紅葉） | ムクロジ科 | 4 28 59 | モミジといえばこのイロハモミジが浮かぶ。葉の裂片を「いろはにほへと」と数えたことから名がつけられた。 | | ○ |
| 7 | エゴノキ（軟膏皮ではｼｬﾎﾟﾝ） | エゴノキ科 | 16 | 春に長い花柄の先に白い花を下向きに開く。果実はえぐい。 | | ○ |
| 8 | エノキ（榎） | アサ科 | 9 37 45 50 | 昔、街道の一里塚や橋のたもとに植えられた。葉は国蝶オオムラサキの幼虫の食草である。 | | ○ |
| 9 | オオモミジ（大紅葉） | ムクロジ科 | 5 | イロハモミジよりひとまわり大きい葉が特徴。条件によって紅葉が黄色から赤まで様々な色になる。 | | ○ |
| 10 | カマツカ（鎌柄） | バラ科 | 43 | 材質は丈夫で折れにくく、鎌の柄に使われたことからついた名。実は甘酸っぱくて食べられる。 | | ○ |
| 11 | キンモクセイ（金木犀） | モクセイ科 | 48 | 庭木として栽植される。10月頃、芳香のあるだいだい色の小花を多数咲かせる。 | ● | |
| 12 | クスノキ（楠・樟） | クスノキ科 | 49 | 長寿で大木が多い。昔は防虫のために樟脳（ｼｮｳﾉｳ）をとったが、最近は緑化木として人気がある。 | ● | |
| 13 | クヌギ（椚） | ブナ科 | 46 | 薪炭材、シイタケの原木として利用。「どんぐりころころ」の歌にある、丸いドングリが特徴。 | | ○ |
| 14 | クロガネモチ（黒鉄鎖） | モチノキ科 | 26 | 樹皮から鳥もちがとれ、葉柄や本年枝が紫色を帯びる。果実は赤色で美しい。 | ● | |
| 15 | ケヤキ（欅） | ニレ科 | 6 27 39 | 日本の代表的な樹木。材は木目が美しく狂いがない。街路樹、公園樹等に多い。 | | ○ |
| 16 | ケンポナシ（玄圃梨） | クロウメモドキ科 | 24 | 果実は柄がやや肉質化し地上に落ちる。食べると甘味がある。 | | ○ |
| 17 | コナラ（小楢） | ブナ科 | 38 | 雑木林の主役。かつては薪用に繰返し伐採され、萌芽更新により雑木林が維持された。 | | ○ |
| 18 | ゴマギ　（胡麻木） | スイカズラ科 | 41 | 枝や葉を傷つけるとゴマのような香りがする。赤果は完熟すると黒くなる。 | | ○ |
| 19 | コブシ（辛夷） | モクレン科 | 1 31 | 集合果が握りこぶしに似る。北国ではこの花の咲く時期が農耕の目安。 | | ○ |
| 20 | サクラ（桜・品種は染井吉野） | バラ科 | 7 52 | 春、一面に美しく咲く薄紅色の花は国花。古くから和歌や文章に取り入れられ、「花」といえば桜のこと。 | | ○ |
| 21 | サンショウ（山椒莫） | ミズキ科 | 33 | 早春に黄色の小さな花を多数つけ美しい。果実は構円形で赤く熟す。 | | ○ |
| 22 | シラカシ（白樫） | ブナ科 | 2 18 21 | 用途は防風林・防火林、カンナの台や金づちなどに利用。 | ● | |
| 23 | シロダモ（白楊） | クスノキ科 | 13 19 22 29 | 雌雄別株で雌株では秋に花と赤い果実が同時に見られる。葉裏の白いことが名の由来。 | ● | |
| 24 | シンジュ（神授・庭漆） | ニガキ科 | 15 | 神社境内に多い。果実は種子を中心に翼があり、回転しながら風で飛ばされる。 | | ○ |
| 25 | タブノキ（椨） | クスノキ科 | 20 25 30 | 暖地の海岸沿いに多く分布する。冬芽は長卵形で赤味を帯びる。お線香の材料。 | ● | |
| 26 | ツバキ（椿） | ツバキ科 | 60 | 春めく前に周りに彩りと明るさを与え、鳥に花粉を運んでもらう鳥媒花（ﾁｮｳﾊﾞｲｶ）。ヒヨドリ、ツグミ、メジロなどを待つ。 | ● | |
| 27 | トチノキ（栃の木） | トチノキ科 | 23 | 種子をあく抜きして、トチ餅をつくる。材は木目が美しく光沢がある。 | | ○ |
| 28 | ナンキンハゼ（南京黄櫨） | トウダイグサ科 | 10 | 庭木・公園樹・街路樹として植えられている。秋の紅葉は美しい。 | | ○ |
| 29 | ヌルデ（白膠木） | ウルシ科 | 51 | 山野の陽地などに自生。幹を傷つけると出てくる、白い樹液を漆のように器に塗ったことからついた名。 | | ○ |
| 30 | ネコノチチ（猫の乳） | クロウメモドキ科 | 44 | 果実は黒色の長楕円形で、猫の乳頭に似ていることから名がある。 | | ○ |
| 31 | ネムノキ（合歓の木） | マメ科 | 53 | 夜間は葉を閉じる。夏の夕方ごろ、おしべの長い紅花が咲く。樹皮は薬用、材は器具用。 | | ○ |
| 32 | ハクウンボク（白雲木） | エゴノキ科 | 34 | 白い花が群がって咲く様子を白雲に見立て、その名がある。 | | ○ |
| 33 | ハマヒサカキ（浜姫榊） | ツバキ科 | 35 | 海岸近くに多く、同種のヒサカキより葉が丸く、分厚く、光沢があり、乾燥などに強い。 | ● | |
| 34 | ヒノキ（檜・火の木） | ヒノキ科 | 14 | 枝をこすり合わせて火を起こしたことからの名。世界最古の木造建築・法隆寺はヒノキで作られた。 | ● | |
| 35 | ヒメシャラ（姫沙羅） | ツバキ科 | 8 | 樹皮は淡赤褐色で薄く剝がれる、床柱などに利用される。 | | ○ |
| 36 | マユミ（真弓） | ニシキギ科 | 47 | 昔、この材で弓を作ったことから真弓の名がある。材は白く、緻密で狂いが少ない。 | | ○ |
| 37 | ムクノキ（椋の木） | アサ科 | 12 58 | 葉に短い毛があり、漆器の木地やべっ甲などの研磨に使われた。果実は紫褐色になり食べられる。 | | ○ |
| 38 | ムクロジ（無患子） | ムクロジ科 | 42 | 夏に淡緑色の小花が咲く。黒色の種子は羽根つきの羽根の球や数珠に用い、果皮は石鹸の代用。 | | ○ |
| 39 | モッコク（木斛） | ツバキ科 | 32 | 材は堅くて緻密。花は白から黄色に変わり、果実は秋に赤く熟す。 | ● | |
| 40 | ヤマグワ（山桑） | クワ科 | 11 56 | 果実は6～7月に黒紫色になり食べられる。カイコの餌料用に栽培される。 | | ○ |
| 41 | ユズリハ（譲葉） | トウダイグサ科 | 3 | 葉は正月の飾り。春先に新葉がでると前年葉が落ちるので「譲葉」。 | ● | |